じいたんマン

1

じいたんマンが
やってきた
のまき

じいたんマンがやってきたのまき

ぶん／え　：おくだはくろ

　あるところに、なかよしむらというむらがありました。
そこにみっちゃんというげんきなおんなのこがすんでいました。
みっちゃんはこのあいだ６さいのおたんじょうびをむかえました。
　おたんじょうびにはおとうさんとおかあさん、おとうとの３さいのけんちゃん、そしていぬのちるちゃんでパーティをひらきました。

そのとき、なかよしむらから８キロメートルほどはなれたところにあるはなさきやまというこだかいやまのうえにすんでいる、じいたんとばあばがきてくれました。
みっちゃんもけんちゃんもやさしいじいたんとばあばが大好きです。
　そのひも、ばあばがふたりがだいすきなフルーツがうえにのったケーキをやいてきてくれました。そのフルーツははなさきやまでとれます。きせつごとにいろんなフルーツがとれるのです。
「きょうはさくらんぼがとれたからうえにのってるのよ」とばあばがせつめいしてくれました。
　じいたんはニコニコしながらちいさなはこをみっちゃんにさしだしました。「みっちゃんも６さいのおねえちゃんになったから、じいたんからこれをプレゼントするよ。いまここではこをあけてごらん。」

みっちゃんがはこをあけると、なかからピンクいろのちいさなきんぞくでできたものがでてきました。それにはながいひもがついていました。

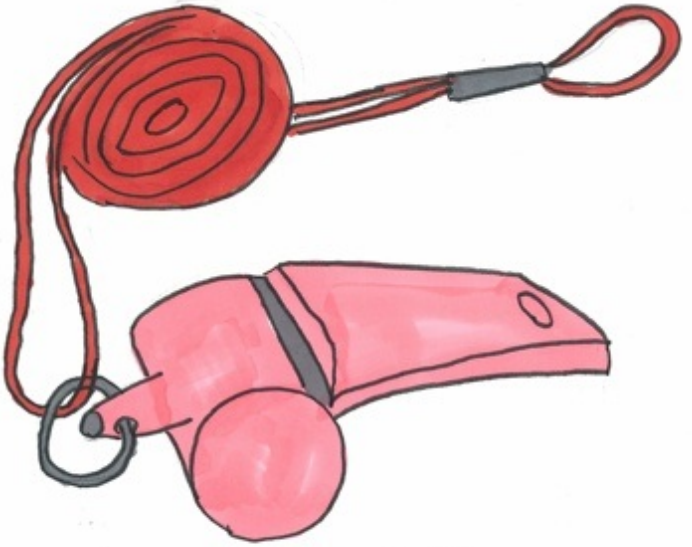
「じいたん、これはなに？なにするもの？」と、みっちゃんがききました。

「それはね、よびこのふえだよ。いちどふいてごらん。」

みっちゃんが、ふぅーっとふくと、プリュプリュプリュというおとがしました。

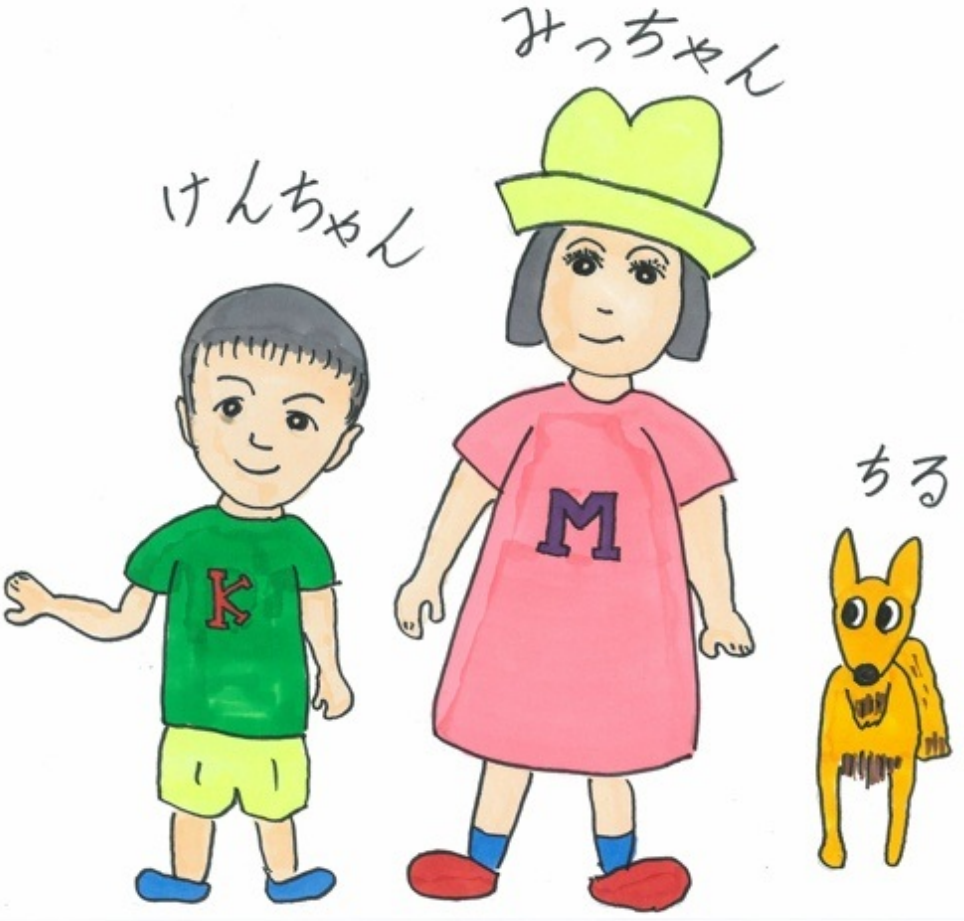
「みっちゃんがでかけるときはいつもそのひもをくびからかけていくんだよ。そしてなにかとってもこまったときにはこのよびこのふえをふくんだよ。ただし、なにもおこっていないときにふいてはいけないよ。」

と、じいたんはニコニコしながらいいました。そして、ちるちゃんのあたまをなでながらウィンクをしました。



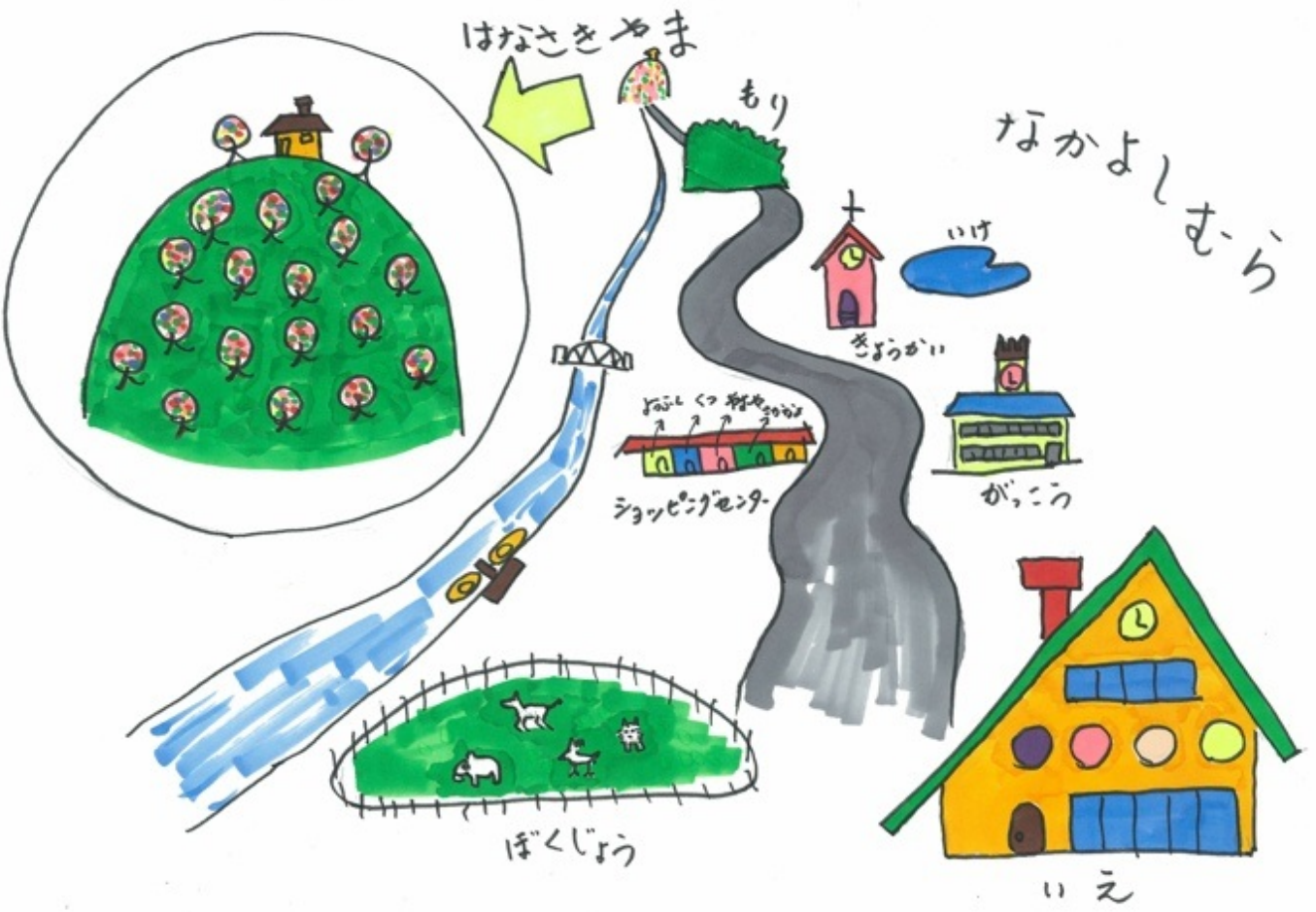
よびこのふえ

あるひ、おとうさんとおかあさんがとなりのまちへおでかけしました。
「みっちゃん、おひるまでにはかえってくるから、おるすばんおねがいね。」
「うん、いってらっしゃい。」
６さいになったみっちゃんはおねえさんになったし、らいねんはしょうがっこうへいくんだから、るすばんくらいできなきゃとはりきっていいました。
おとうさんとおかあさんがでかけてからしばらくはおとなしくあそんでいたおとうとのけんちゃんがぐずりだしました。
「どうしたの？けんちゃん。」
おねえちゃんのみっちゃんがききました。
けんちゃんはなみだをながしながら、
「じいたんとばあばにあいたいの！」
といいました。
じいたんとばあばははなややさいのおせわでいそがしく、２しゅうかんに１かいだけきてくれます。
みっちゃんははなさきやまにはなんどもおとうさんとおかあさんにつれていってもらったことがあります。
そしてはなさきやまはいまもとおくにきれいなはなのいろにそまってみえています。



「けんちゃん、なくんじゃないよ。おねえちゃんがつれていってあげるから。
とみっちゃんはおとうとにやさしくいいました。
「ほんと？」
と、けんちゃんはすぐになきやんでめをかがやかせています。
みっちゃんはおかあさんがよういしてくれたすいとうをかたからかけてでかけようとしました。
そうだ、このあいだおたんじょうびにもらったピンクいろのよびこのふえをもっていこう、とおもいだして、はこからよびこのふえをとりだしてくびからかけました。
こうして、みっちゃんとけんちゃんといぬのちるちゃんはでかけていきました。

ふたりと１ぴきはとことことあるきだしました。
どんどんいくと、いつもみなれたがっこうやショッピングセンターにつきました。
みっちゃんがひとりできたことがあるのはここまででした。
それでもむこうのほうにちいさくはなさきやまがいろとりどりにかがやいています。
みっちゃんはじしんまんまんですすんでいきました。
そして、きょうかいといけをとおりすぎました。


なかよしむら
はなさきやま
もり
いけ
きょうかい
ショッピングセンター
がっこう
ぼくじょう
いえ

そうしてふたりと１ぴきがてくてくあるいていくと、だんだんだれにもであわなくなりました。
やがて、もりのなかにはいっていきました。
「おじょうちゃんたち、どこへいくのかね？」
と、こえがしましたが、だれがはなしかけているのかわかりません。
きょろきょろしていると、
「ごめんごめん、おどろかしてしまって。こっちだよ。」
よおくみると、めのまえのおおきなきがしゃべりかけていたのです。
「あー。こんにちは、わたしたちははなさきやまのじいたんとばあばにあいにいくのよ。」
と、みっちゃんはそのおおきなきにはなしかけました。
「あのおふたりのおまごさんだったのか？ぼくたちはいつもおせわになっているんだよ。では、きをつけていくんだよ」
と、おおきなきがはげましてくれました。
「うん、ありがとう！」
といってふたりと１ぴきはまたあるきだしました

もりのなかはだんだんうすぐらくなってきました。
ふたりともあしがつかれてきてなんどもやすみました。ちるちゃんがそんなふたりをしんぱいそうにみています。
けんちゃんのかおはすこしなきがおになっていました。
みっちゃんもすこしかなしくなってきました。
そのとき、みちのさきになにかがいるのがみえました。おおきないままでみたこともないいきものです。
いや、どちらかというとじいたんがよくよんでくれるむかしばなしにでてくるおにのようです。

「わっはっはっはっは！ここからさきへはとおさんぞ。わしはこのもりにひゃくねんいじょうすんでいるなぞかけどうじじゃ。これからだすもんだいにこたえられないばあいは、おまえらをさらっていって、いっしょうそうじとうばんにさせてやるからな。」
けんちゃんはぶるぶるふるえながらなきだしました。ちるはなぞかけどうじをにらみつけています。
みっちゃんもほんとうはなきたいところですが、６さいのおねえちゃんになったてまえ、なくわけにはいきません。でもあしはふるえがとまりません。
「ではいいな、これからもんだいをだすぞ。もんだいはこれだ！」
なぞかけどうじは１まいのいたをくびにかけました。そこにもんだいがかいてありました。

３×□＝21

と、かいてあります。
「もんだいはこの□はなんのすうじかあてるのじゃ。」
なぞかけどうじはじまんげにいいました。

なぞかけどうじ

　みっちゃんはあせりました。たしざんとひきざんはおかあさんにならっていたのでじしんはありますが、この×マークははじめてです。さいしょはバツなのかなあとかんがえましたが、いやいやちがうとおもいました。でもなんのことかわかりません。このままこたえられなかったら、けんちゃんとちるちゃんとしぬまでおそうじばかりさせられるのです。もちろんおとうさんやおかあさんにもあえなくなるのです。でもこのもんだいはみっちゃんにはむずかしすぎるのです。じかんばかりがたっていきます。

　「どうじゃな、もうこうさんか？」
　となぞかけどうじはにくにくしげにことばをかけます。

　あぁ、もうだめだわ。とみっちゃんがおもったとき、とつぜんちるちゃんがみっちゃんにむかって、
　「うーぅ、ワン、ワン」
　とほえます。ちるちゃんのめはみっちゃんのくびにかけてあるピンクいろのよびこのふえをみつめていたのです。

　「あっ、そうだ。」
　みっちゃんはおもいだしました。あのおたんじょうびパーティのときじいたんがいったことばを。
　「みっちゃんがでかけるときはいつもそのひもをくびからかけていくんだよ。そしてなにかとってもこまったときにはこのよびこのふえをふくんだよ。」
　と、じいたんはいったのです。

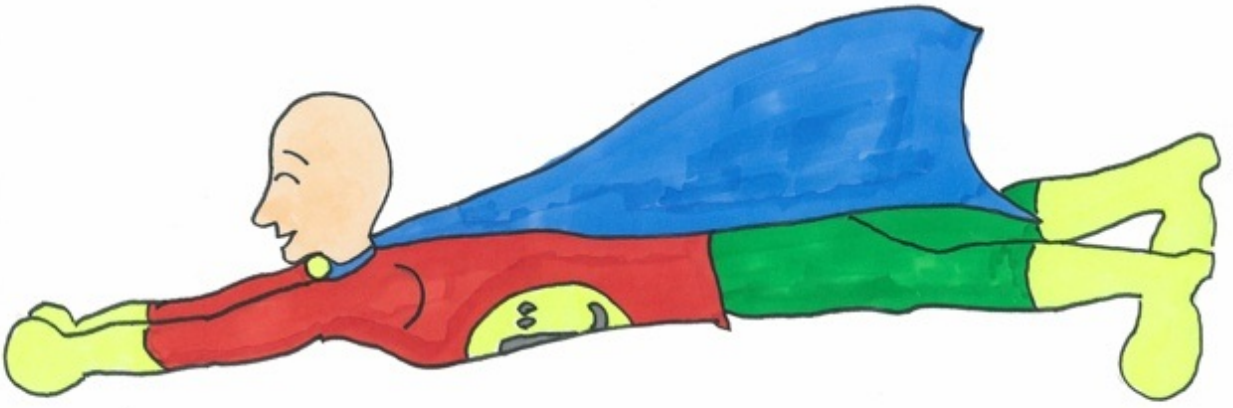
　そこで、みっちゃんはピンクいろのよびこのふえをおもいきりふきました。
　プリュ、プリュ、プリュというきれいなおとがもりじゅうにこだましました。

　「わっはっはっはっは！そんなふえのおとでおどろかせようとしてもわしはびくともせんぞ。」
　なぞかけどうじはばかにしたようにいいます。

「どうしよう？もうだめだわ。」
おいつめられたみっちゃんはぜったいぜつめいのピンチです。

みっちゃんはもうおおごえでなきたいくらいでした。
ピンクいろのよびこのふえをふいてから５ふんくらいたったときでした。

シューッ、というくうきをきりさくようなおとがして、めのまえにおおきなマントをかたからかけたおとこのひとがおりてきました。
あっ、じいたんだとみっちゃんはおもいましたが、よおくみるとかおにはしわもなく、せなかもしゃんとのびています。すこしじいたんともちがうようなきがします。
「じいたん！！！」
けんちゃんはおもわずさけんでいました。ちるちゃんもうれしそうにしっぽをふっています。



「わたしはじいたんマンだ。そらのむこうからやってきたんだ。」
と、そのおとこのひとはむこうにいるなぞかけどうじにいっていました。
「みっちゃんのこたえられないもんだいをだして、いっしょうそうじとうばんにするとは、なんとひきょうなやりかただ。それならわたしももんだいをだすからそれにこたえてみろ。もしこのもんだいがとけたら、みっちゃんたちをそうじとうばんにするなりすきにするがいい。そのかわりとけなかったら、このもりをでていき２どともどってくるでない。」
じいたんマンがそういうと、
「わっはっはっはっは。わしにとけないもんだいなどこのよにないのだ。もうわしのかちにきまっておるわ。」
と、なぞかけどうじがじまんげにいいました。

ثا

「それがわたしのもんだいじゃ。」
「おまえはうそをついておる。」
と、じいたんマンがいいました。
「なんじゃとっ！わしはほんとうのことをいっておる。わしにとけないもんだいなどない。」
と、なぞかけどうじがおこっていいました。
「それではそのことのただしさをしょうめいしてみるがいい。」

「たとえばじゃ、おまえがただしいことをいうやつだとしよう。そうすると、ただしいことをいうやつが、とけるといっているので、まちがいなくとけるだろう。」
と、じいたんマン。
なぞかけどうじはここぞとばかりうれしそうにいいます。
「そうじゃろ。あたりまえじゃ。」
「しかしもし、おまえがうそをいうやつだとしよう。うそつきがじぶんがこのもんだいをとけるといっているのだから、とけないのにきまっているな。」
と、じいたんマンがいうと、
「わしはうそなどいってないぞ。」
と、なぞかけどうじがプリプリおこっていいました。
「このままでは、とけるとも、とけないともいえるな。さあ、とけるというならそのことをしょうめいしてみろ！」
じいたんマンはぴしっといいました。

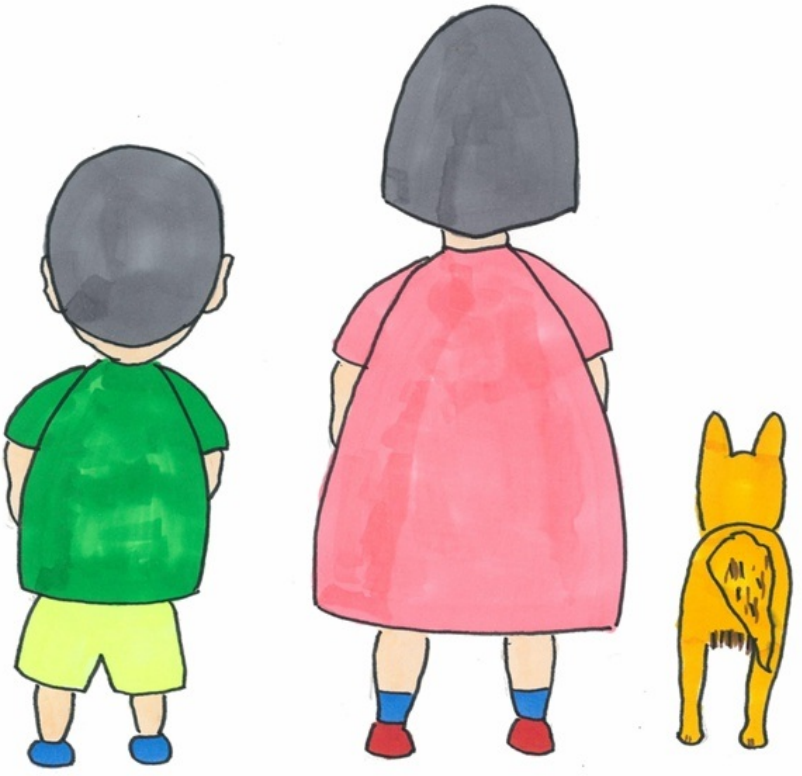
「うっ、ううう・・・」
と、なぞかけどうじはうつろなめになり、いちもくさんににげていきました。

「じいたん。いや、じいたんマンありがとう。あのなぞかけどうじがだしたもんだいのこたえはなんなの。」
「こたえは７じゃ。これはかけざん、わりざんのもんだいでな、あの×はバツではなく、かけるじゃよ。」
「わたしのだしたもんだいはゲーデルというひとのふかんぜんせいていりのおうようでなぜったいにこたえられないもんだいじゃ。それより、おとうさんとおかあさんにだまってこんなところにくるなんて、むちゃじゃ。これからはだまってでかけてはいけないよ。」

「うん、これからはきをつけるよ。」
「きょうはわたしがおくっていってあげよう。」
じいたんマンはふたりと１ぴきをだきかかえると、しずかにうかびあがっていき、みっちゃんたちのおうちのまえまでつれていってくれました。

「では、さよなら。」
と、いってじいたんマンはおおぞらにむかってとびさりました。
ふたりと１ぴきはいつまでもながめていました。

（じいたんマンがやってきたのまき　おしまい）



2009年6月の父の日に孫娘からもらったプレゼントがこのネクタイである。
孫娘が描いた絵をネクタイにしたものだ。
自身はこの絵のことを「じいたんマン」とよんでいるらしい。
2009年6月といえば、まだ孫娘も４歳になる前で英国に滞在していた頃だ。
それからかれこれ２年。この私も最近むくむくと構想が湧き上がってきて、
これをテーマに”絵本”にしてみようと、思い立った次第である。
だから、孫娘は原作者でもあるのだ。
白鷺

じいたんマンげんが：おくだそうこ

じいたんマン　《じいたんマンがやってきたのまき》

http://p.booklog.jp/book/38158

えとぶん　：　おくだはくろ
げ ん が　：　おくだそうこ
著者プロフィール：著者プロフィール：一九四六年京都市生まれ。現在奈良市在住。

六十五歳を機に、白鷺と号す。「白鷺は塵土の穢れを禁ぜず」

これからは、哲学、文学、歴史、音楽、美術、ビジネス、孫.....たちと、
キッチュに、独善的に戯れてみたいと思っています。

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/38158

ブクログのパブー本棚へ入れる
http://booklog.jp/puboo/book/38158

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社paperboy&co.